

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100658		
法人名	社会福祉法人 自立共生会		
事業所名	社会福祉法人自立共生会 ひかりの里 3階		
所在地	三重県桑名市新西方3丁目187番地		
自己評価作成日	平成23年10月30日	評価結果市町提出日	平成24年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470100658&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 11 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型デイサービスや日中一時支援事業、放課後児童健全育成事業を併設しており、幼児と学童に職員も含めた三世代・四世代の交流を日常的に、又継続的に行っています。法人理念である「お年寄りの底力を活かす」を実践するため、お年寄りの知恵や昔取った杵柄を子どもたちや職員に教えて頂いています。定期的に外出や外食、買い物に出掛け、天気の良い日には託児所の子も達と一緒に散歩兼ねた防犯パトロールにも出ています。自治会活動(地域清掃や地域の祭りなど)にも可能な限り参加することで、地域の中の一住民としてその人らしい当たり前の生活を少しでも維持して行けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「お年寄りの底力を活かす」という理念の実践に向け、法人理事長の著書「幼老統合ケア」の考え方を、管理者・職員全員が一丸になって取組んでいる。近くの託児所から幼児が来るし、放課後児童クラブから小学生がお年寄りと一緒に宿題をする環境は、お年寄りの利用者を喜ばせている。プライドを感じさせる場面づくりも多く、毎日の散歩を兼ねた防犯パトロールや、お年寄りしか出来ない「かまど」でのご飯炊きも毎週行っており、お年寄りの生き生きした表情や張りのある会話、笑顔が多いところからも伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「お年寄りの底力を活かす」を職員が共有し、幼老統合の取り組みを実践している。	お年寄りそれぞれいろいろな得意なことを持っておられるので、職員は利用者一人ひとりの得意なことを引き出し、自信の回復と生きがいを持った生活に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、毎年地域清掃や親睦会に参加したり、近所のクリーニングやさんに衣類をお願いに行ったりと、交流できるよう働きかけている。また、学童保育の子ども達が通う小学校のまつりにも出店し、参加している。	自治会行事や散歩を兼ねた地域の防犯活動、児童クラブを通して子どもやその親御さんとは交流を深めているが、事業所周辺の住民の方々との更なる交流を深めることに苦慮している。	地域の小学校を中心にした「家庭と地域と学校」をつなぐ催し「ふじっこまつり」がある。地域のたくさんの方々と交流ができる場なので「認知症サポーター養成講座」を開催し、「お年寄り理解」を深めて頂くことを考えている。実現されることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の役員会を事業所内で行ったり、夏祭り・お餅つきにご近所を招待したり、地域の方々に事業所内を見て頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には桑名市介護高齢福祉、北部地域包括支援センター、第三者委員、自治会長、ご家族などにも参加して頂いている。又、防災訓練を見学して頂き、意見を頂くなど、サービス向上に活かしている。	事業所からの報告や出席メンバーからの意見も多く、活発な会議をしている。今年は東日本大地震の関係で避難訓練や防災に関する意見をたくさんいただき、事業所運営に活かすことが出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区防災訓練への参加や桑名市介護支援ボランティア受け入れ、桑名市徘徊SOS緊急ネットワーク事業協力機関、桑名市地域包括支援センター、認知症見守り安心ボランティア教室の実習受け入れ時に、ケアサービスの取り組みを伝えられている。	行政からの依頼事項も多く、事業所として積極的に引き受けている。身寄りのない方や成年後見制度利用の難しい対応では、市役所の多大の協力を得て対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に向け、職員皆が日頃から取り組んでいる。止むを得ず玄関に鍵をかけるなどの身体拘束を行わなければならない状況が生じた場合は、ご家族にも十分に説明し、承諾を得て記録にも残すようにしており、身体拘束ゼロへの取り組みをしている。	設立時より身体拘束をせず、鍵をかけないことに取り組んできた。また、認知症の方の特異行動には、①必ず理由がある②ケアの仕方で変わる・・・という考えで、毎年「身体拘束をしない介護」の研修を全員で行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について毎年研修会を行い、職員の意識の向上、徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修会を開き、参加できなかった職員には関係資料を配布し、周知し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日時を予め決め、十分な時間を取って説明し、御理解頂けるよう努めている。利用者、ご家族が不安や疑問点を聞きやすいように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階の玄関に「ご意見箱」を設置したり、家族会総会やカンファレンス参加時など意見を頂ける機会を設けている。出された意見や要望などには管理者・職員で共有し改善していけるように取組んでいる。	家族の面会時はもちろん、毎月のカンファレンスの時や運営推進会議の席でも意見・要望を聞き出している。また家族会を年2回ホテルで開催し、利用者の日常の姿のスライドショーを行い、意見吸い上げの一つの手法としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月「月間報告書」に宝探や、改善案などを職員は書き、毎月提出している。また、月1回行われるカンファレンスにて意見や提案を聞き、運営に反映している。	毎月のミーティングでの意見引き出しに加え、職員は常時「気付きノート」を携帯し、気付いたことを毎月提出している。提出件数は毎月100件程になる。また毎月出す「月間報告書」には「宝探し」の欄があり、無駄排除等運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「月間報告書」に日々の活動を記入し、毎月提出している。又、職員の意見を取り入れたキャリアパスの充実にも取組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ウェルネスグループ全体で研修を行い、職員のスキルアップに力を入れている。又、働きながら資格が取れるよう、勤務など配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との情報交換やネットワークつくりのほかに、職員を積極的に研修に参加させ、他事業所から学ぶ機会を多く持っている。又、見学の受け入れ時に意見を頂いてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴などをご家族から伺ったり、踏み込みすぎないよう配慮しつつ、本人の要望や不安に対処出来るよう努めている。本人の思いをゆっくり聞く機会を持ち、安心できる人間関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時の管理者による説明だけでなく、本人とかかわることの多い職員も家族と話す機会を持ち、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、職員だけでなく、必要に応じ医師や看護師とも連携を取り、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人にとって介助の必要な部分と、そうでない部分を見極め、出来る事は最大限発揮していただけるよう努め、共に支えあえる関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や各行事にご家族も参加して頂けるよう働きかけている。又、カンファレンスにも参加していただき意見や要望をケアプランに盛り込んで、共に本人を支えていけるよう取組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	寺町や木曾三川公園など地元を感じられる場所への外出を企画したり、馴染みの人と交流が持てるよう面会なども本人の意思も尊重しながら受け入れている。ご家族にも働きかけている。	事業所として利用者の地域とのつながり・継続を大切にしており、児童クラブに来る子どもたちの関係者や併設のデイサービスの利用者との関係も途切れないようにしている。馴染みの商店街や神社仏閣のお祭りもあり、早い時期に計画を立て実行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に生活を共にしている利用者同士が穏やかに過ごして頂けるよう席を配置したり、職員が橋渡し役となってひとりひとりが欠かせない存在と感じて頂けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより退居された後も、必要に応じて本人や家族と、今後のサービス利用における相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中で希望などを受け止めたり、入浴時や夜間なかなか寝付かれない時などに個々の思いを少しずつでも聞き出せるように努めている。ご家族からの情報からも把握できるようにしている。	普段の何気ない会話の中からや、1対1になれる入浴時や寝つけないとき等にポロッと出るお話をセンター方式のシートに書き込んでいる。それを集大成し、利用者各人の「自分史」を完成し、家族にも喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やケアマネージャー、本人にお聞きしたり普段の会話の中でも把握できるよう必要に応じてセンター方式のシートに書き留めて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用して思いや状態を把握できるよう努めている。又、往診時には療養シートを用いて伝達漏れや指示漏れが無いよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催のカンファレンスで、ご家族には3ヶ月に1度ケアプラン見直し時に参加していただき、家族の要望を取り入れている。職員・家族・本人・主治医・看護師などと意見を持ちより本人の現状に即した介護計画の作成に努めている。	医師、看護師の意見も入れ、家族参加のカンファレンスを毎月行い、介護計画書を作成している。またその介護計画書もセンター方式を活用し、ICF(国際生活機能分類)を重視した新様式を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌、療養シートに気付いたことや日々の様子を記入している。その中でケアの変更が必要となった場合は職員間で話し合い情報の共有を図って介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望・要望に応じて買い物や外出を行っている。又、幼児や児童と触れ合う機会の多い事業所の特性を生かして、子ども達と作り上げる夏祭りや食事会などを企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法や傾聴ボランティア、散髪ボランティア、学生ボランティアとの交流を行っている。又、地域清掃や地域の祭り、日々のごみ出しや資源ごみ出しなど、地域へ出る事で力を発揮し安全で豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は毎週、他にも内科や脳外科は月に2度、神経内科、脊椎は月に1度、医師の往診がある。又、歯科や眼科などは可能な限り本人のかかりつけ医を受診している。行くことが困難な方は、往診の依頼も行い支援している。	利用者全員が法人母体の医療機関をかかりつけ医に希望している。利用者各人に在宅療養計画書があり、持病の詳細から薬、往診日まで記載され、本人・家族の安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体であるウェルネス医療クリニックとは24時間医療連携を取っており、日々利用者の状態ほ報告・相談することで適切な治療や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは看護サマリーや介護サマリーを用いて、情報交換や情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にアンケートに記入してもらったり終末期に向けての話し合いを管理者よりしている。職員には法人の方針を説明し共有した上で、支援の在り方について勉強し取り組んでいる。	終末期対応について早い段階から本人・家族と話し合っており、入居後も毎年話し合っている。また終末期には本人・家族に職員も含め、全員の理解を得るようにしており、看取りも既に4件経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同グループ内の研修で、看護師や消防署による心肺蘇生、緊急時の対応の研修を毎年行っている。毎年消防署である2日間の救命研修に1名参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員指導のもと、日中だけでなく、夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議の委員や地域包括センター、第三者委員にも見学に来てもらい助言などの協力を頂いている。又、三重県地域密着型サービス協議会の一斉防災訓練にも参加している。	消防署員立会いの避難訓練を行っており、避難に要する時間も短くなってきている。また運営推進会議メンバー立会いでも行っており、アドバイスも貰っている。巨大地震に備え3日分の備蓄もしている。	地震の規模によっては、地域の助けも来ず、その場にいる職員だけで対応しなければならない。利用者の命を預かる職員の責任は重く、沈着冷静な行動が取れるよう日頃からの十分な訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても利用者ひとりひとりを「人」として尊重し、持ち続けている能力を最大限生かして頂けるような対応を研修会、勉強会や毎月のカンファレンスを通して職員一人ひとりに意識付けと実行に取組んでいる。	利用者のプライドやプライバシーを損ねないように、常日頃から勉強会や研修会で職員の意識向上を図っている。特に日常生活における「声掛け」には注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか思いを伝えられない方とは職員と1対1でゆっくり話せる機会を設けたり、何気ない日常会話から思いや希望を引き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操時にその日の大まかなスケジュールを伝え、行事や催し物、外出などに本人が意思決定して参加出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪ボランティアに来てもらい、本人の希望を聞きながら対応している。又、買物外出では本人の好みに合わせて品物を見て選んでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、献立に反映している。調理の準備(切る・ほぐす・擂るなど)から味付け、盛り付け、片付けに至るまで個々の能力に合わせて協力をして頂いている。又、幼児との食事会も定期的に行なっている。	嗜好調査は毎年行い、併設の病院の栄養管理士が基本メニューを作り、当日の職員が利用者に合わせて変更する場合もある。お手伝いできる利用者に限られるが役目も決まっており、職員と一緒に味付け、下準備等行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、バランスに注意し提供している。なかなか水分量を確保出来ない方には、嗜好を変えるなどして対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	比較的自立している方には声掛けし、介助の必要な方にはそれぞれに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の尿量や排泄パターンを把握し適時のトイレ誘導に努めている。自立に向けた支援としてオムツから布パンツへの移行していきよう、自立に向けた支援を行っている。	利用者各人の排泄パターンをしっかりと把握し、全員が布パンツを目標に取り組んでいる。表情やしぐさで分かる方もおられ、見逃さないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、繊維を多く含む食材など献立も工夫している。極力自然排便が出来るよう、腹部マッサージ、日頃から朝の冷たい飲み物など個々の状態に合わせて取り組んでいる。掃除、体操や散歩を取り入れ適度な運動量を維持出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や意向を伺い、ゆっくり入浴出来るよう努めている。	お湯は毎日沸かしており毎日でも入れるが、平均して2日に1回程度である。温泉の元やオリーブオイルを身体に塗ったりと、楽しく入る工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音楽を流してリラックス出来る時間を設けたり、日頃の会話の中で本人の思いに耳を傾けて不安を取り除くよう努め、出来るだけ自然な形で入眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示の元、服薬支援を行い嚥下が困難な場合や症状に変化がある場合などは医師に報告し速やかに対応出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃のコミュニケーションから個々の生活歴や能力を把握し役割を持って頂けるように努めている。又、ベランダで食事やおやつを食べたり、外食に出かけたり、お弁当を持ってお花見に出かけたり、家族会との合同お食事会をホテルなどで年2回している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時には声掛けを行い、希望を伺っている。購入したいものがあるれば極力ご本人と一緒に買物に出かけるようにしている。行きたい場所についてはご家族に相談し、お連れしていただけるよう支援している。	天気の良い日の散歩やベンチでの外気浴の他に、家族やボランティアの協力を得て、神社やお祭り、季節の花を見に行ったりと行事は多い。利用者の希望で今年はフラダンスを見に行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方はご家族の了解を得て少額を管理して頂き、買物の際は極力利用者自身で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば家族や大切な人と電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間でのテレビの音量や室温、明るさに気をつけ季節を感じていただけるような飾りをするなど工夫している。	リビング兼食堂を取り囲むように各人の部屋があり、1日の内の多くの時間をここで過ごしている。利用者同士はもちろん職員とも身近に会話ができ、食事の準備の匂いもあり、ゆっくりと時間が流れる場所である。1階のユニット「ひだまり」は夕方になると学童が帰ってきて、賑やかになる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所にはソファを、ベランダにはベンチを設置するなどしてのんびりと日光浴をしたりくつろいだり出来る工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や好みの物を持って来て頂き、居室内で居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	リビング兼食堂からの距離も近く、居室内は各人自分流に部屋作りをされている。趣味の作品を飾っている方が多く、刺繍で飾られた立派なタンスを持ち込まれている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差の解消・手すりの設置・家具などの固定など安全面に配慮している。又、個々の身体状況に合わせ歩行器などを使用したり、役割を持って頂き、安全かつ自立した生活が送って頂けるよう工夫している。		